

## 令和2年度第3回東播磨新地域ビジョン検討委員会議事録

1 日 時 令和2年10月26日（月）13時半～15時半

2 場 所 加古川総合庁舎5階 会議室

3 参加者 16名（一般 7名 行政 9名）

4 内 容

### （1）展望年次が2050年の理由について

委員長） 前回もご質問もいただきましたが、本質的な話であってこれが決まらな  
いとバックキャスト方式にしてもフォーキャストにしても作ること  
が難しいという話で。まず30年後何故2050年なのかという理由について、本庁  
ビジョン課からご説明いただけるということでお願いいたします。

ビジョン課） 前回、前々回と展望年次を2050年としていることについて色々と  
議論をいただいたということで、県庁としての考え方を説明させていただきます。

理由はいくつかございます。一つは形式的な要素ですが、元々20年前に今のビ  
ジョンを作った時は当時の30年後である2030年を、10年後の改訂時は同じく  
2040年を展望年次としてきました。ついでに、今までのストーリーを受け継いで、  
新ビジョンも30年後の2050年を展望することとして進めたいというふうに考え  
ています。

もう一つ、我々の意図する本質的な要素としては、県民みんなで将来像を描いて  
いくときに、現状の延長線上だけで考えるのではなく、大胆な発想でアイデアを出  
し合っていきたい、との思いであります。

2年前の県政150周年に際してつくった「2030年の展望」は、どちらかという  
と直近の技術革新などの潮流を踏まえて、現行ビジョンを補完する形で少し近い未  
来を描いてみようという発想でつくりました。10年後というのは、まだ我々の世  
代が現役で活躍している時期です。自動運転やAIの浸透など大きく変化する社会  
を踏まえ、少しずつ見えてきた未来を見える化し、共有しましょうというものです。

今度の新ビジョンが展望する30年後は、我々の次の世代が活躍する時代です。  
次の世代にこんな地域を残していきたい、或は、これは思い切って変えていきたい  
という願いや希望を、大胆に考えていきましょう。現実にとらわれすぎずに、描き  
たいというところが意図するところがございます。ともすると、議論のなかで「そ  
れって現実的にあり得ない」「これは言うのを遠慮しよう」という発想になりがち

ですが、そこは是非思い切った意見を出し合ってほしいという思いで設定させていただきました。

ただ一方で、変化の激しい社会ですので、30年後を展望するのが難しいというご意見も、皆様のおっしゃる通りだと思います。全県的な整理としては30年後という展望年次は揃えさせていただきたいと思いますが、議論の進め方に関しては、いきなり30年後だけを見ていくのは難しいかとおもいますので、例えば、現状の課題や魅力、県民の地域に対する身近な思いも含めて、「こうなりたい」「ここは変えたい」というような材料を集めたりして、重視するテーマや価値観に見当をつけながら、徐々に発想を膨らませていくというような、何か工夫をしながら進めていけるのではないかと考えております。

委員長) 例えばつい先日菅内閣総理大臣が2050年までに温室効果ガス排出をゼロにするとおっしゃっていましたが、まさに2050年というものにある程度国の方も焦点を絞った形にするのではないかなと。最近では、内閣府のイノベーションの方でムーンショット、バックキャストイングと同じですけども2060年台後半までに月に行くという約束事を決めて、技術革新をそこからどう進めていくのかというのを調べるムーンショットという概念があります。2050年、サイバーティックな話がありました。2050年というのはそういった意味ではムーンショットにしても何にしても絵に描いて目標値を立てるという部分が県ではまだありませんが、国の方ではそういった方向性も出てきている。

積み上げ式だと出来ることを書いていく。先ほどビジョン課の話でもありましたように、県庁でも「現実的じゃないと」という話があるじゃないかと。しかし逆に思い切ったムーンショットだと「何をすべきなのか」ということが明確になってきて、技術革新はそうした方向で進められるという風に言われます。ただ、社会はそういかにいくかはわかりませんので、それで皆さん多分国が言っているゼロエミッションであるとかあるいは2050年に向けたムーンショットプランのようになかなか地域のプランニングをするのは難しいじゃないかというご意見かなと思いますが、いかがでしょうか。ご質問とかご意見があればお願いいたします。

ご意見なければご納得いただいたということでよろしいですかね。思い切った意見を言っているいいということですが、どこまで思い切った意見を言ったらいいですかね。

ビジョン課) 最後バランスをとったり、まとめていく意見はいくらでも出てくるかと思います。まずは「今の地域は資源も少ないから」という発想に、捕らわれてしまわないように。そこを取り払って「ある分野ではこういったことを思い切ってやっていきたい」ですとか、「今は資源はないけれども是非こういう分野でリードしていきたい」など。そういった思い切った意見を、出しやすい環境づくりのための、検討姿勢というふうに捉えていただければと思います。

委員長) どうでしょうか。アイデア出そうですかね。先ほど言ったように50年後は環境、排出をゼロにすると総理はおっしゃっていましたが。

委員) 世界では既に「脱炭素社会」になっております。日本はかなり遅れているので、国がゼロを目指すというようになれば技術改革がかなり進んでくると思います。そこで考えられるのが東播磨地域で水素をつくること。

東播磨地域というのは水が豊かでもありますので、水を利用して水素を取り出して。それを販売していくというのが生まれてくるのではないかと期待はしています。実際に今年から日本は月の開発に向かっていく訳ですから、そちらの方も2030年には水素エネルギーで月の探索をするというようにも言われておりますので、是非新エネルギーの方に力を入れていくようになってほしいと思います。そうなっていけば人手不足と言われておりますが、地域の人たちが地産地消でエネルギーを生み出して、それによってそこに住んでいる高齢者の方々が自動運転によって外へ出ていける。そういった街が生まれてくるのではないかと思いますし、既にドローンで荷物が運ばれております。おそらく宅配が空から飛んできて、空飛ぶ車も出来てくるだろうし楽しみは沢山見えてくるのではないかと考えています。

委員長) 水素社会という言葉もございますし、エネルギー問題が解決すれば、色んな問題が解決するのではないかと考えております。水素を発生させるには色々な施設が必要ですが、東播磨は天候も良いですし平地も多い。他に何か、2050年の展望などご意見ありますでしょうか。

ビジョン課) 今、すごく夢のあるご意見を言っていただきました。例えば、淡路島ですと、ずっと以前から「環境未来島構想」というプロジェクトを思い切って打ち出して、苦勞をしながらですが、島民や外部の企業など色んな人を巻き込みなが

ら取組みを推進してきました。ああいう形で地域の夢を打ち出すようなことを。地道な小さな取り組みだけでも勿論良いのですけれど、地域が目標を持って、ビジネスや大きい企業なども巻き込んで、持続可能な活性化の形をつくってきています。いま淡路で色んな分野のたくさんの芽が出はじめているのは、そうした夢や目標を掲げてやってきたということも要因ではないかと思います。

そういった趣旨で思い切った、地域がわくわくするような意見を遠慮なく出し合いながら、話し合っていければ良いのではないかと思っております。

委員長) 先ほど技術的な話から入りましたが、それ以外に社会の大きな変革というのも当然存在してくるだろうなとは思いますが、延長線上ではありませんので。社会は積み上げ式なので延長線上だとなかなか難しい部分もあるかと思いますが、「いや、こんな社会が来るのではないか」という思い切った意見があれば。例えば今から30年前は、ここまで一人暮らしが多くなるとは予測していなかったと思います。三世代が増えるのではないかという予測もありましたが、そうならなかった。そういった社会の大きな変化からの観点からでも結構です。

委員) 話し合いのテーマの中に取り上げていただきたいのですが、地域や暮らしというカテゴリーになるかと思いますが、これから30年後に向かって後期高齢者の方が増える傾向になるかと思いますが、30年後になると5人に1人が後期高齢者。これまでの生活シーンでしたら、結婚・出産・子育てなどの生活シーンはありますけれども、70代や80代の方の生活シーンというのはあまりなくて。地域の中で支えながら、最期まで認知症になることもなく生き活きと元気に暮らしていく。そういうことがこれから望まれていくのではないかと思います。家に閉じこもらないで。一人暮らしの方も当然増えていく筈ですけどそういった方も元気が出るような東播磨であってほしいと思います。

委員長) 他にご意見なければさきほどビジョン課が言っておられた思い切ったことを提言いただきたいという趣旨で2050年。ご理解いただいたということによろしいでしょうか。

委員) 現実にとらわれず思い切って「夢」を語る—ということなら、この場よりも、もっと若い世代にお聞きになる方が良いでしょうと思います。今日の資料にも「地方

分散型」とありますが、先日出された第 32 次地方制度調査会の答申は、2040 年頃から逆算して顕在化する諸課題に対応するのに必要な地方行政体制を考える、というものでした。このやり方なら私もついていけますが、更に 10 年先、しかも課題対応ではなく希望を語るというのは、正直、苦手です。宇宙開発や温暖化対策という大きなテーマならまだ考えやすいですが、今回求められているのが「それぞれの地域特性を活かした」ビジョンなので、東播磨の人口がどうなっているのか、そもそも今のような自治体が存在するのか—などを考えると想像しづらいですね。まあ全県的に 2050 年を想定したビジョンを作りたいということは理解しましたので、あまり冷めた発言をせずに、想像力を働かせる努力はします。

委員) 今おっしゃられた全体のこと。地域のマクロなスケールと、ミクロなスケールというのが結構難しいなと思っています。日本の予測と兵庫県の予測、更に東播磨の未来の姿がどうなるのかということになると、ミクロになればなるほど不確定要素が多くなるなというのがあって、そこが地域特性。地域特性は既にあるものなので、地域特性を活かすことと、全体の変化のこととバランスをどうとっていくのかというのが難しいなと思っていますが、その辺りは住んでいる人の生活実感のレベルとこの全体の流れというのをうまく組み合わせて、私は地域特性を研究しているので、そこら辺をうまく接続する役割を持たせたら良いのかなと思っています。

委員長) 折角の夢をどう実現していくかというところで積み上げていく部分については、先ほど発言がありましたように地域特性も踏まえて描いていくということではないかと思います。

委員) 2050 年というのは、私たちはいないのでどうなっているかわからないというのはありますが、だけど今委員がおっしゃったような、現実的な地域の自治会やコミュニティも含めて、大変な状況にもなっているかもしれないけれど地域から発想するというのも大事なので、そこをどう折り合いをつけていくかと。地域の様々な課題を解決するのにこれから 30 年。10 年ごとに改訂などやっていくにしてもこれから 30 年。地域社会というのはどうなっているのかというのは、新しい助け合いとかがないといけないとは思っていますし、その辺り 2050 年というのがちょっとイメージしにくい。ビジョンですので大きな考えで目指すこと、わかりやすくしないといけないかと思います。

委員長) ありがとうございます。そうしましたら、大体皆様からご意見を賜ったということで、先ほどの進め方で進めていきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

## (2) 検証(前回より修正)について

委員長) 続きまして現行ビジョンの検証にうつります。前回からずっとまさにこれをやった上で、次のステップへ行かないといけないという重要なところで。先を見つつ、足下を確認するというものです。

事務局) 検証(資料 1)について説明

委員長) 前回は数値などを取り上げながら、ご指摘があった「県の事業だけじゃなくて、ビジョン委員がどのような活動をしてどういう成果があがったか、そういう部分も含めて検証、検討するべきではないか」という意見もありまして、今取り組みも含めてご説明がありましたが、検証につきましてご意見いかがでしょうか。個別のことでも、全体的なことでも結構です。

例えば、ビジョン委員の取り組みがどれだけ効果があったか。これはなかなか評価しづらいところがありますので。

委員) 9位や10位の項目で気になるところがあります。例えば、体感治安や不当な差別がワーストの10位で、「目的をもって学ぶ」は9位。それらをつなぎ合わせると、今後は「多様性を認める」ことが大事な価値観になりますが、これまでのビジョン委員の活動は三世代交流や子どもを対象にしたものが中心で、障がい者や外国人、マイノリティ、今だとコロナの患者差別の問題もありますが、人権に関する教育や生涯教育、あるいは自分が地域の中でどう役に立つ人物になるか、というような取り組みが弱かったのかな、という気がします。

また環境が大事だと、先ほど委員もおっしゃっていましたが、ビジョン委員の活動は、ため池保全以外はなかったですね。将来的に「環境保全社会」を目指すのであれば、更なる取り組みが必要だと思います。私は、検証というと、駄目なところや課題ばかり目についてしまうので、どなたか、前向きな良いところを伸ばそうというような発言があればありがたいです。

委員長) 10年間ビジョンを続けてきての課題の部分が見えてきたのではというご指摘でした。

委員) 全体的なところになります。ビジョン委員になって感じたところですが、ビジョン委員になる皆さんは何らかの課題を感じている方が多くいらっしゃって、ビジョン委員になることによって同じような課題を持っている方と出会って活動を繋げるということがあると思います。それが、一つに固まってしまうのではなく、他分野にばらけてきているというのが見えてきました。

新ビジョンの描き方にも繋がってくるかと思うのですが、市民の方が課題だと思ふことに参加出来るような仕組みになれば良いのかと思いました。

委員長) 課題を課題だと感じる事が出来る感受性。そういう感受性が強い方がビジョン委員になっておられる。そういった方々に他のことにも関心を持っていただければいいということが読み取れるのではないかと。

委員) 「心地いいまち」のところで最初に思いましたが、防災・防犯の部分で、防犯カメラ・見守りカメラが多く設置されたという。平成29年には9台だったものが、令和元年には739台に、ということではありますが、これは基本的に東播磨地域を指しての数ということによろしいですね。加古川市については1500台の見守りカメラもついた。加古川市ではそうですけど、私は稲美町在住なのであまりそれを感じられていないというのがあって、市町による温度差があるのかと思いました。

あとは保育所の待機児童というものも、やはり地域差でしょうか。急激に増えてきている中で、私が最近耳にしたのは兄弟で違う保育園に行かされるという。私からすれば、あってはならないだろうと思うのですが、そうしないと受け入れ場所がない。それはビジョン委員でなくて市町の対応になってくるかとは思いますが。待機児童が増えるにしても、受け入れる学校が増えていますと市町が発表するならば、それはそうなのだろうと。ビジョン委員の話でなくなってしまって申し訳ありません。「楽しいまち」のところでも、いじめの発生件数がここまで伸びますかというぐらい。実際小学校中学校の子どもを持つ親の身からすれば。ここについては、親も地域の人、もっと考えていくべきことではないかと感じま

した。

委員長) 東播磨一帯といってもやはり地域差があることと、保育所の話はここでの議論は少し難しいかもしれませんが、指標の書き方で変わってくるのではないかと。指標の書き方はもう少し考えても良いのかというご意見でした。

いじめについては、この間少しニュースにもなっておりましたが少子化の中でもこの問題は起こっているというご指摘。これについては今後の指標を考える上で課題になるということでした。事務局としては、この辺り何かございますか。

事務局) 個人的な考えですが、いじめにつきましては10年前よりも学校が隠さないという姿勢で公表してきているのではないかと。ただ実際そういういじめが起こっているということですから。伸びてきているということについてはそういう公表の姿勢も影響しているのではないかと。10年前からも本当に増えてきているのかどうかというのはわからない部分ではあります。

委員からもご指摘ございました順位のところ。説明の時に少し申し上げましたけれど、体感治安につきましては、東播磨と全県で言いますと阪神南。尼崎と加古川というところですね。ここはずっと平均を上回れないという状況です。防犯カメラも設置されているのですが、他の地域を上回れない何かがあるのかと考えております。

それから不当な差別ですが、これも10位。全県平均でいきますと、28.4%ですので、24.9%は低いですがそんなに大きな差はない。今年度でいくと、逆に東播磨は2位になっている。ただ、低い水準でのところですのでこの部分は改善していかないといけないですが、数値的にはそういったこともある。

委員) 私も体感治安であるとか刑法犯数は減っていると思いつつも、体感治安はやはりそれぞれ思うところがあるでしょうし、まだまだ発展途上だと思います。特に冒頭の2050年を目指してというところがあって、目標を掲げられるところはというお話もありましたので、生活に実感出来る指標については長期的なスパンであっても見ていく必要があると冒頭から議論の中で感じているところ。発展途上でもありますし、地域差によって起こっている課題というのもそれぞれあるのだろうなと感じましたので、そういったところは重点的にもっと進めていくべき。



委員長) 課題を中長期的に掲げていくというのは非常に良い。そのために何が出来るのかという。防犯カメラや見守りカメラの次に何が出来るのかと考えていくのは良いかもしれません。

事務局) 見守りカメラにつきましては、先ほど委員からも説明がありましたが加古川市が先行しています。今年度東播磨地域でもスマートシティの関係でBANBANネットワークの基礎信号を抽出させる基地局を、明石市を除く2市2町で新たに40局以上設けます。今後市町の方で見守りカメラを設置していただければキメ細かい防犯に役立てていただける。基盤の整備を今年度行っておりますので、市町には見守りカメラの設置を是非進めていただきたいと思っています。

委員長) 補足ありがとうございました。先ほど事務局が検証の説明の中でも触れられていましたが、行政がインフラを整備していく。その中でビジョン委員がどのような活動をしていけるか。

先ほどのいじめの問題だとか、体感治安、待機児童、防犯カメラ等で住民やビジョン委員は何が出来るのか、ビジョン委員の立場から何かご意見を。

委員) 見ていると1位のところが子育てについての項目だけ。この指標を全体で見て、県民局としてどこに力を入れていくのか、東播磨はここを目指す、焦点をあてる場所があれば教えていただきたい。防犯などについては地域では、見守りカメラもそうだが自治会でも見守り活動というのは結構している。ただいじめについては地域ではなかなか気がつかない。気がついた時にはもう遅いというのがある。自治会もそうだが、学校や親御さんもそうだと思う。行政も含めてその対応策が難しい。活動はやっているのだが。これから出来ることを我々も考えていかなければと思う。

それと、ため池の数が増えたり減ったりしているのは何故か。一度減って、また増えている。ため池の数が変わったのか。細かいところだがわかるならば教えていただきたい。

事務局) 事務局側でもため池の担当課に確認したが、明確な答えは得られなか

った。増えた分については、最初に調査が出来ていなかったために後から数え直して増えたというのは間違いなくあるらしい。減っていくというのは、わからない部分が多い。少ない数だとは思われるが公共施設を作るためにため池を埋めたというのは考えられる。

委員) 減るのはわかる。形が変わりため池としての価値がなくなったなど。増えるのが疑問だった。

委員) ため池ですが、最初からカウントを間違っていて登録をする際に二重に出してしまった。それで急に減っていることもある。逆に見直しをして増えているところもある。ため池管理は複雑で台帳と実数が合っていなかったと思う。

事務局) 国の法律が変わって、農業用のみを「ため池」としていたところ、形状があれば「ため池」とみなすことになった。それで増えた。

委員長) 「ため池」についての定義が変わったとか、二重に報告していたとか人的なところで数が変わっている。数が変わるものが指標というのもどうかと思うが。

委員) 指標3の整備率の指標はどう見ればいいですか。分母が変わってきますが。

委員長) 今日は、これ以上は情報がないと思われるので。定義の問題やカウントの仕方の問題、整備率も含めて。公式な数字ではありますが見直しがあると思いますので、また事務局の方で確認を。

ため池以外で「美しい」のところで何かあれば。

委員) 「美しいまち」のところで活動をしてきました。前回もお話しましたが、地球温暖化防止活動などについてはビジョン委員を終えられた方が地域で活動をしています。私たち水辺のメンバーもビジョン委員の任期が終われば、水辺の活動を続けながらも地球温暖化防止活動推進員として地域の中で活動を続けています。

私は加古川市在住ですが、加古川市は兵庫県だけではなくて近畿圏で見ても非常に優れた取り組みをしている。加古川市環境マネジメントシステムというもので、節電、省エネ、ゴミの削減などに徹底的に取り組んでいらっしゃる。職員の持ち込みゴミの禁止、ゴミ分別など細かいところまで見ている。他の自治体についても、加古川市のように優れているところがあればPRしていただければ良いと思う。

委員長) ビジョン委員以外にも市町の取り組みもあるという。指標ではなかなか見えてこない行政の役割もある。委員がおっしゃっていた見守り活動のように自治会が頑張っている場合もある。ビジョン委員以外にも様々な地域密着型の活動がある。それらをどうやって評価していくのか。それらの活動を評価していくことは必要だと思います。今後ビジョンを作る上において、自治会などの行政と住民の中間団体は役割を果たしてくれるだろうと思われるが、そういったところにも着目していくことが必要だと思います。

委員) 自然とのつき合い方ですが、私は公園の近所に住んでいます。広い公園を眺めていますと、生き物や昆虫が色々といいますが、親子で公園に遊びに来る方はキャッチボールをしたりバドミントンをしたりスマホでゲームをしたりと自然とふれ合うようなことをなかなかしていない。

夏だと蝉もすごく鳴いているのに虫捕りをしようとする親子も滅多に見ない。水路や川を見ていると危ないという看板もあるからか水遊びをする親子も少ない。我々が子育てをする時代だったら喜んで魚を捕ったりしていたものだが、今だと水路などは危険なので近寄らないようになっている。こういった場所で魚捕りをすると子どもたちは楽しいだろうとは思いますが、大雨で水路、川の水位が急に上がるという危険性も孕んでいるので、そういったところで自然との付き合い方が難しくなっているのではないかと思っている。

委員長) 委員がおっしゃっていた将来の方向性の話と県が力を入れているのは何ですかという話ですが、こちらについてはまた皆さんと議論が必要な話になってきます。子育てが1位ということですが、県が力を入れていることというのはどんなことでしょうか。

事務局) 子育てについては人口対策に直結することですし、各首長さんの考え方とかがあると思います。どこがどうと言うつもりはありませんが、明石市もお金を含めて施策を打たれておりますし、じゃあ他の2市2町さんがされていないかと言うと、2市2町も子育て施策はどこもされている。そういった中で子育てが1位になったのではと思います。ただ、待機児童。若い夫婦、子どもが入ってきて、その中で課題がまた出来ている。施策はそれぞれ全てに課題がございますので、そういった課題をどう対応していくかということになります。

当然こういうアンケート的なものも最初に作っていくのは私たちです。最終的に局長や知事にいく手前ではこういうものを見ながら、必要だということを考えながらやっております。

委員長) 県レベルだとどうしても全体を見ないといけなくなってしまう。これに力を入れています、というのは県ではあまりない。逆に市町の独自性がある。確かに明石市は泉市長の時から手厚い子育て施策はずっとやっておられますし、播磨町は清水さんが町長になられてから出生率がドンと上がったたり、稲美町は、アンケートを採ると「住みやすい町」というのが必ず上位に来る。そういったものは力を入れてきた首長、あるいは行政の役割を果たされたのかなと思います。が、県として子育てを東播磨地域で重視したということではない。

委員) 指標を選ぶというのが難しい。先ほどのいじめの話もあったように、件数が増えているのは、それだけ明らかになってきたということかもしれないし、離婚件数が減るというのも必ず良いことかどうかもわからない。日本全体や県全体で増えているか、減っているかということもあるので、単純に数字の上下だけを見てもなかなか状況がわからない。その辺りが難しいなと思いました。

また東播磨の地域特性でいうと、都会的なところと農村的なところが混在しているというのがあって、例えば体感治安が良くないというのは何となく都会的な良くないことが出てしまっているし、不思議なのが前回でも話題に出た「自然とのふれあい」が低いというのは「東播磨は結構自然があるじゃない」というところで不思議です。ポストコロナの時代としては、ほどよい都会でほどよい田舎というのはすごく可能性があるはずなのに、何か活かされていないというのは感じます。

その辺りが、今後のビジョンを考えていく上で考えるべきところだと思います。

た。

委員長) 指標の捉え方には、労がありますね。例えば、高砂市は待機児童がゼロですね。良いことと捉えても良いですし、人によっては「逆に子どもが少ないからゼロじゃないのか」という捉え方もありますし。捉え方によって見方が変わるというご指摘でした。解説を加えていただいたことで、次のステップへ向き合えるかなと思いますし、先ほどご指摘があった指標の取り方に注意しなければいけないことがあるとか、指標を3つとらないといけないとか4つとらないといけないとかで来てしまって、指標が本当に合っているかどうかの議論が十分ないままに捉えたものもあったのではないかと思いますので、次はずばりのものが無いときは思い切って採らないとか、そういうことも含めて検討しても良いのかなと思います。

### (3) 新ビジョンの描き方・進め方について

事務局) 新ビジョンの描き方・進め方について説明

委員長) 前回、新ビジョンをどうやって作りますかという議論の中で、バックキャスティング方式やムーンショット方式。それともある程度積み上げていくのかという部分がまだご納得いただけていない部分があったかと思っています。

目標を立てた上で積み上げていくのか、目標を立てた上で逆に減らして近づけていくのか、2つの方法があってどうしましょうか。実際やってみると大きな違いはあまりなかったりはする。行きつ戻りつになるので①か②を選ぶということではなく、おそらく①と②のどちらを選んでも結局行きつ戻りつになると思う。先ほどビジョン課がおっしゃった時のように「現実的かどうか」の議論が出たときはどうしても②に戻って、2020年はどうか、2030年はどうか見ないといけなくなりますから。どうしてもバックキャスティングといっても、理想どおりにいかないのは確かではありますが、どちらかというとなら①を選びますか②を選びますかという話をまた議論していただければと。②は将来を見通すのはなかなか難しい。見通すことは難しいから、階段の上から立って、眺めつつということでも良いのではないかというご説明があったかと思いますがこの辺り、いかがですか。これが決まらなるとなかなか次に進まないというのもあるのですが、その上で委員

から「将来こうなったら良い」というご意見もたくさんいただいておりますし、そういった夢のあるご意見をまず描いていきたいですけれども、描いた後に「ではどうしていったらいいのか」というところで皆さんのご意見をいただきたいと思っておりますが、いかがですか。

③と④は接近法ですね。④は少し表現が難しいところがありますが。先ほど委員がおっしゃったようなこともありますけれども。確かに一方で課題もある訳でそうしたものも踏まえながら、「けど夢もあるよね」というのを接近法でいくのか、「こうなったら良いよね」という方からいくのか。アンケートにも影響する話です。

明石市は特にSDGsで2030年はやっておりますので、2050年がどうなるかはわかりませんが。何かその辺り市町の方で接近法と比べてご意見があれば。

委員) 本市の場合、SDGsの理念に則った形で長期計画を考えています。SDGsは「2030年のあるべき姿」を検討するという形になっていて10年後の姿を考えておりますので、今の時点で2050年、30年後をどうするかというのは議論の俎上にも上がっていないところなので、我々のやり方とはまた考え方を別にしてやっていかないといけないのかなと率直に感じているところです。前回、私は①か②なら②だと思えるということをお伝えしたと思いますが、今日ビジョン課の方から、今回のテーマが「次の世代にどのような地域を残したいか」という観点で議論していただきたいということでしたので、目指すべき姿を念頭に考えるのであればバックキャスト方式でじっくり考えてから、後で議論する中で現実的でない意見は戻って行って、委員長がおっしゃっていたように、現実的かそうでないのかを議論していくのが、現実的な話ではないかと思えます。

委員長) 各市町で進めていらっしゃる進め方みたいなのがあれば。計画は基本的には接近法ですからね。

委員) 委員がおっしゃったように我々も2030年が基本的な考え方ではありますけれど、冒頭議論がありましたように、委員長の例にもありました2050年から逆算して目標を掲げて動き出すことに意義があるのかなと思えました。我々は社会課題解決のために動いているという側面が強いですし、次世代というキーワードも議論に出ましたので、2050年を目標に掲げる方が良いのかなと思ひ

ました。

委員) 当初に出ていた 30 年後というのも理解できました。大胆な発想でとなるとバックキャストになるのかと思いますし、委員長もおっしゃっていたように、どちらかだけではなく両方を取り込んでいくのが良いと思った。

委員) 我々も 2030 年の目指すべき姿を描いた上でどのようなことに取り組むかという作り方をしています。我々単体で出来るというに限られている。我々単体であれば現実的なことを見て作るけれども、逆に県民局の単位であればスケールが大きくなる分 2050 年の姿というのをもう少し大胆に描いて計画を作るというのも市町だけでは出来ないことかと思っています。

委員長) 接近法と各市町のやり方をお聞きしました。

委員) 30 年後ということで、どうやってするのかなというのはありましたが、今日の県庁からのお話で「次の世代にこんな地域を残したい」「大胆なこと」で、先にとんでもないことを決めてしまっという方法もありかなと思いました。30 年後も私は生きているので、楽しみに考えていきたいなと思っています。

委員) 2050 年を大胆に考えるということと、東播磨加古川が 2050 年にこんな姿になれば良いというのはリンクされているので、大胆に考えるということとこんな姿になれば良いというのを分けて考えるのではなく、大胆に 2050 年をこんな姿になれば良いというのを考える。本当なら学生も含めた若い人で色んな意見を聞いた上で方向性を決めて、出てきた問題、課題は都度解決、議論していくのが良いのだが。リンクされているのではないかと思います。

委員長) 冒頭、ビジョン課のご説明で明確にされたところもありますので、委員が水素社会の話や、エネルギー問題などうまく補完してくださって、ある種一つのこうなってほしいという姿を見せていただいた。出来そうかなということ、そういう方向で進めるということによろしいでしょうか。

事務局) よろしく申し上げます。

<資料③ 住民の描く将来像について>

○（前回までの）アンケート等をまとめキーワードを抜き出している。

○ 30年後に（アンケートに30年後という明記はしていない）、地域振興がどうなるか、暮らし、教育がどうなるか、分野別に考えないといけない。

<資料④ 若者アンケートについて>

委員長） 資料④では、30年後というのは明記して聞くようにしています。キーワードでも構いませんし、資料④を先に見ていただいてのご意見でも良い。

資料④について説明しますと、はじめは30年後の自分自身を想像してくださいという。どこで働いていきたいか、暮らしていきたいか。それから誰と暮らしていきたいか。次に30年後の地域の姿を想定してください。30年後の東播磨の地域の姿。一つはどのような姿になっていると思うかという予測です。もう一つが望ましい姿。これは実は将来構想研究会が作られた兵庫県の7つの未来から採っている。委員が見たらすぐ想像出来るでしょうけど、東播磨の将来ではないので適切かどうかという気はしてきますが。

グループ1はシンガポールとかドバイとかを想定していただけたら。

グループ2は新産業都市。昔の相生や加古川もそうですね。新しい会社がやってくる。

グループ3は住宅地域。地元で育って地元で暮らしながら働く。宝塚とかそういうイメージです。

グループ4は観光都市ですから、国内でいうと鎌倉とか奈良。

グループ5、これが実は東播磨に近い。高砂や加古川に近いイメージ。中小企業中心の商工業。イメージで言うとマイルドヤンキー。マイルドヤンキーは高砂を舞台にしていますから。

グループ6は中山間地域なので、これは東播磨地域には当てはまらないかと思っています。県内で言うと宍粟市とか養父市とか。

本庁の方はグループ7を選びたがっているみたいです。県はこれにしたがっている。人口が回復するのはこのグループになる。

このようなイメージが、県の研究から出てきたイメージです。

そして、そういったものを踏まえて30年後残っていてほしいものは何か。現状についても聞きましょうということで、現状についてどう評価しているかという



ことを⑥～⑨で聞いています。これがアンケート結果になります。

どうぞ、資料を読んで何か気になったことがあれば。

委員) 東播磨地域の30年後を聞くときに、例えばグループ1。素直に読むと、東播磨地域がグループ1の都心地域になるということですよね。

その辺り、どうでしょうか。大胆な未来を予測するという意味では良いのかもしれませんが、兵庫県全体でこういう地域になった場合というのは、大阪や神戸がこういうグループ1の姿になって、東播磨地域はそこに通う人が住む地域になるということなので、この文面、スケールのまま東播磨地域に当てはめると、ちゃんとした答えがアンケートとして出てくるのかなというのはあります。兵庫県全体でグループ1の姿を選んだ場合、東播磨地域が都心地域になるという話ではない気がするので、全体的にスケール感が違う。兵庫県全体での話と東播磨地域での話は変わってくるのではないか。

委員長) 県全体のイメージを作るというので、AIを活用した未来予測で日立が作ったものです。当初私が相談を受けた時、30年後の姿をといたとき、「どういう風に聞いたら良いですか」ということなのでそういえば、兵庫県が未来予測をしていたのでそれを使ったらどうかという話をしていました。兵庫県の未来予測を手元に置いて、分析を読んでみると単に指標を説明しているだけでどんなイメージなのかわからなかった。私が指標を読み込みながら、分岐点も踏まえてイメージを作りましたが、作って見たら委員もおっしゃるように、これは兵庫県の各地域だと思った。それぞれ、先ほど言ったように都心地域だったら神戸。グループ3なら西宮か宝塚。

逆に言うと、将来構想研究会がやったことは、兵庫県は30年後も変わらないよねというのを示しただけではないのかと。とはいえ、これに変わるものがあるかというあまりここまでやった研究はないものですから、東播磨のデータだけを抜いてAIに分析させるということはやっておりませんのでなかなか東播磨地域だけの予測は出来ない。東播磨だけで予測をすると、おそらくはシナリオは7つどころか2つか3つぐらいにしかならないでしょうが。それで、グループ7まで使ってみて、先ほどご指摘があったように「東播磨」はと聞くのはしんどかったので「兵庫県は」と聞いても良いのかなと思いながら出しました。

委員) 高校生ぐらいに取るアンケートとしては、7つの社会像の書きぶりが、ちょっと難しいでしょうね。「DINKS」という言葉とか、意味が分からないのではないのでしょうか。もうちょっと単純に兵庫県の将来像みたいなものを3つか4つパターン書いて、その中で東播磨はどんな位置を占めると思うかをフリーに考えてもらうとか、選択方式であっても、もう少し簡単な選択肢の方がいいと思います。

それから、設問⑧の位置はここでいいのでしょうか？ 初めに将来のことを聞いていて、設問⑥の前に『現在のことについてお聞きします』と断り書きがある。その後の⑧で、『どのような姿であればよいか』を聞くと、時系列が再び入れ替わってややこしい。「どのような姿であればよいか」の設問は、④のあたりに持ってきてはどういか、と思います。

また、最初の設問の「30年後の“あなた”を想定して」というのはすごく良いと思いますが、選択肢が四つで、そのうちの一つが東京、さらに一つが海外—というのは、どうかな、と。高校生の発想って、東播磨地域全体よりも「私が住んでいる明石」とか「私が住んでいる稲美町」とかですよ。なので、先ほど委員がおっしゃった<都心でもあり田舎でもある>という特性を配慮するならば「東京などの都心（都会志向）」や「離島などの中山間地域（田舎志向）」などの選択肢にして、若者の指向を見るというのも手かな、と考えます。そうすると、先ほど委員がおっしゃった「東播磨はどちらもある」のが魅力という話につながりやすいですよ。

委員長) ⑧は現在のことです。こんな場所だったら良いなということなので、これは書き方を変えます。誤解がありますので、質問の仕方を変えます。よく高校生に聞くと、「ディズニーランドがほしい」とか言う訳です。

委員) 若い人が見たときに、1から7まで読むのも少しきつい。敢えて30年後と先に出されているのかと思いますが、最初に東播磨の現在の姿を聞いて、最後に30年後というのを少し文章も短くしてもらってどんな風になったら良いかということを書いてもらうなり、○をつけるなりの方がいいと思う。東播磨と言っても、高校生だったら自分が住んでいるところの狭い地域しか知らないと思います。東播磨はどうですかと言われてもわからないで、自分が知っている地域のことを書くと思うので。今思っているようなことであれば、簡単に○がつけるので

しょうが、30年後の姿ということになると、書いてもらえるかと言われると少し難しいのではと思います。であれば、順番を逆にして30年後を後の方に持って行くのはどうか。

委員長) 順番はまた考えたいと思います。

委員) 30年後の姿を見ておきますと、どんな姿になってほしいというのは、若い人だけではない。どんな姿になってほしいというのは、どんな世界を見たいかということ。東播磨のどの部分を元気にしていったら良いのかとか、東播磨だからこそ出来ることは何だろうかとかそういう選択肢が必要なのかと思います。

委員長) 選択した上で、そのために何が出来るかと更に聞く方が良いのかということですね。

委員) これは予想される姿、想定される姿のうちの何パターンかですよ。選択してこの通りになるのかな?ということもありますし、どのパターンを選ぶかで、その実現のために何をすることも変わってきます。30年後、それぞれを重視するということですか?

委員長) 説明すると、分岐点というのがA Iの分析の中に出てきます。何パターンかに自動的に分かれる訳ではなくて、いくつか分岐がある。分岐どちらにするか選ぶ時に選択するという。意味合い的には重視の方が正しい。分岐というのがあったので、選択という言葉にしましたが、意味としては重視ということです。

先ほど委員からありましたが、考えだけではなくてその後何が必要かということとは付け加えたいと思います。

アンケートは各市町でも使われているかと思いますが。小学校に未来の絵を描いてもらったのは高砂市でしたか。高砂市は、どんなイメージでしょう。

委員) 若い人の意見を聞くにあたって、作文、絵を書いてもらった。どういふのを望まれているのかということでしたが、皆さん、笑顔を書かれているのが印

象的でした。

委員長) 絵の話をしました。人がどう描かれているかというのは私も気になっていて。ビルだけ描くというのはあまりなくて、皆さん登場人物がどこかにいらっしゃる。ところがコロナ禍で登場人物がだんだんいなくなってきた。小学生がきちんと自分たちが入っている、人を入れている。

そこが1~7のグループではなかなか見えないということかもしれませんが。

委員がおっしゃったように、そのために何が出来るかということも合わせて考える。

アンケートについては、事務局と私で調整させていただいて、メールなどで送って確認いただくという形でもよろしいですかね。

対象となる数は、統計的には300あれば十分です。もう少し増やしても良いかとは思いますが。自由記述がありますから、我々が新しいことを考えようとしたら自由記述が多い方が新しいことが考えやすいというのはあります。協力いただくのは、県立高校、高専、私立高校、県立大学など。このエリアに限定しますよね。

委員) 学生だけでなく、働いている若い人の意見も必要だと思います。事業所に協力してもらったらどうでしょうか。ものづくりの町なので、工場などで働いている人の意見も聞きましょうよ。

委員長) また考えてみましょう。少し急ぎますが、今日は色々なご意見賜ったところでまた調整させていただきます。資料などについて、ご意見ご質問ありましたら事務局まで。